

## 水野教育長記者会見 概要

日時：令和8年3月27日（金）16時00分～16時30分

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

### 教育委員会の取組みについて

#### 【水野教育長より】

本日はお集まりいただきありがとうございます。

本年度最後の記者会見となりますが、どうぞよろしくお願いいいたします。

#### ○令和8年度全国高等学校総合体育大会大阪府開催競技について

令和8年度全国高等学校総合体育大会、大阪府開催競技について説明します。

本年夏、令和8年7月22日（水）から8月21日（金）まで、全国高等学校総合体育大会、通称インターハイが近畿ブロックで開催されます。

大阪府では、全30競技のうち、バスケットボール、卓球、ソフトボール、アーチェリーの4競技を開催する予定としており、現在、大会開催に向けた準備を進めているところです。

各競技の開催地および日程については、資料1のとおりです。

まず、バスケットボール競技は、7月27日（月）から8月2日（日）まで、大阪市のAsueアリーナ大阪、HOS住吉スポーツセンター、堺市の大浜だいしんアリーナ、羽曳野市のタケダハムはびきのコロセアムで開催されます。

次に、卓球競技は、8月12日（水）から8月17日（月）まで、大阪市のAsueアリーナ大阪で開催されます。

続いて、ソフトボール競技は、女子が7月26日（日）から7月30日（木）まで、男子が8月1日（土）から8月5日（水）まで、それぞれ大阪市のセレッソスポーツパーク舞洲で開催されます。

最後に、アーチェリー競技は、8月3日（月）から8月5日（水）まで、大阪市のヤンマースタジアム長居で開催されます。

また、インターハイ大阪府開催競技を盛り上げるため、大阪府実行委員会では広報アンバサダーを設置し、広報活動を行っています。資料2をご覧ください。

4競技すべての広報を担当する総合アンバサダーとして、YouTuber「レイクレ（Lazy Lie Crazy）」のともやんさんに就任いただきました。

ともやんさんには、YouTubeの企画として府内高等学校の部活動取材を依頼しており、4月上旬より順次動画が公開される予定です。

また、バスケットボール競技では現役プロバスケットボール選手の合田怜選手、卓球競技では元プロ卓球選手で東京オリンピックおよびパリオリンピックの解説を務めた藤井寛子さん、ソフトボール競技では北京オリンピック金メダリストの乾絵美さんと、日本代表選手に選出された経験のある中川彩音さんに就任い

いただきました。

乾さんは、北京オリンピックにおいてキャッチャーを務め、優勝時には上野投手を担ぎ上げたことで知られています。

さらに、アーチェリー競技では、北京オリンピックに出場した守屋龍一さんに就任いただいています。

今後、大阪府開催競技に関する情報は、大阪府実行委員会公式 Instagram やインターハイ公式ホームページ等を通じて発信されますので、ぜひご覧ください。

## ○「大阪教育ゆめ基金」について

大阪教育ゆめ基金についてです。

大阪府では、大阪の子どもたちの「学び」と「はぐくみ」を支えるため、大阪教育ゆめ基金を設置しています。

令和7年度は、これまでの記者会見でも取り上げてきましたので、本日はそのまとめとして報告します。

まず、この場をお借りして、大阪教育ゆめ基金に寄附をお寄せいただいた皆様に、御礼を申し上げます。

令和7年度は、延べ604件の寄附をいただきました。

今年度は、大阪府行政オンラインシステムでの寄附受付に加え、「ふるさと納税ポータルサイト」や「二次元コード」による受付を開始するなど、寄附方法の拡充に取り組みました。

また、新たな取組として、大阪・関西万博の独自ポイントサービス「ミyakubo」の終了に伴い、株式会社りそな銀行様より、有効期限が終了したポイント相当額をご寄附いただきました。

金額については非公表としていますが、企業のサービスと連携し、多くの皆様からご支援をいただいたことを大変ありがたく受け止めています。

令和7年度にいただいた寄附の合計金額は、1億7,633万6,143円となりました。

まとまった金額の寄附をいただいたこともあり、前年度と比べて大幅に増加していますが、寄附方法の拡充など、今年度強化してきた取組の成果が表れているものと考えています。

そのほか、記者の皆様へ配布しているフライヤーにも掲載していますが、令和7年10月には府内金融機関3行と遺贈寄附に関する協定を締結しました。

本制度の認知度向上を図り、「大阪の教育を応援したい」「母校を支援したい」という思いを持つ方々とつながっていけるよう、今後も周知に努めていきます。

## ○府立博物館での催しについて

府立近つ飛鳥博物館令和8年度春季特別陳列の開催について説明します。

府立近つ飛鳥博物館では、天井工事等のため常設展示室を閉室していましたが、令和8年4月1日にリニューアルオープンします。

これを記念し、4月25日（土）から6月7日（日）まで、春季特別陳列「大阪の眠れる逸品たち」を開催します。

日本各地で実施されている発掘調査により、多くの遺構・遺物が発見されていますが、その中には、十分に紹介されることなく収蔵庫に保管されてきた資料も存在します。

今回の展示では、学芸員が過去の調査成果を改めて精査し、貴重な資料を選定しました。

古墳時代前期の富田林市内の古墳から出土した甲冑や、古市古墳群で出土したとされる金製の耳飾りなど、多様な資料を展示します。

リニューアルした常設展示とあわせ、多くの方にご来館いただきたいと思います。

## 質疑応答

### ○公立高校及び私立高校の志願者数について

(読売新聞)

公立高校及び私立高校の志願状況について、今年の傾向や変化をどのように分析していますか。

(水野教育長)

詳細な分析については今後進めていくこととなりますが、現時点で把握している速報値を基に説明します。

全日制および昼間定時制を含む昼間部高校では、募集人員 3 万 4,969 人に対し、志願者数は延べ 3 万 6,723 人となっています。平均志願倍率は 1.05 倍で、昨年度の 1.02 倍から 0.03 ポイント上昇しています。

公立高校で定員割れとなった学校数は 67 校で、前年より 12 校減少しました。本府としては、修学機会の確保を最優先としており、一定の余裕を持った募集定員を設定していることから、制度上、一定程度の定員割れが生じる構造となっています。

その中でも、志願者数が 40 人以上定員を下回る学校については、学級数の減少につながるため、引き続き課題として認識しています。該当校は昨年度と同数の 23 校です。

私立高校については、無償化制度の影響もあり、専願率は上昇しています。一方で、公立高校の志願倍率も前年を上回っており、公立高校の魅力発信に取り組んできた成果が一定程度表れているものと受け止めています。

誰もが希望する進路を選択できる社会に近づく中で、公立高校としても教育内容や環境整備、魅力発信に引き続き取り組んでいきたいと考えています。

### ○AI エージェントの取組みについて①

(読売新聞)

公立学校における AI エージェント導入を、今後どのように進める考えですか。

(水野教育長)

現在、モデル校において、どのような形の AI エージェントが学校現場に適しているのかを実証しています。

インターネット上の多様な情報を取り込むことによる影響や、機能が高度になりすぎた場合の使いづらさといった点も含め、さまざまな観点から検証を行っています。

目的は、教職員の業務負担軽減や働き方改革につなげることです。検証結果を踏まえ、適切な活用の在り方を見極めながら、今後の展開を検討していきたいと考えています。

## ○OAI エージェントの取組みについて②

(読売新聞)

主に事務作業での活用を想定しているとのことですが、授業での活用は考えていますか。

(水野教育長)

AI の活用については、校務支援と学習支援の双方を視野に入れていきます。

令和8年度には「学校DX課」を新設し、取組を体系的に整理していく予定です。

校務支援におけるAI活用については、合理化や働き方改革に資するものであれば、積極的に進めていくべきと考えています。一方で、学習面での活用については、児童生徒の発達段階等に十分配慮し、活用方法を限定する必要がある場合もあると考えています。

## ○OAI エージェントの取組みについて③

(読売新聞)

導入の是非を判断する時期について、目安はありますか。

(水野教育長)

AI技術は進展のスピードが速く、明確な期限を定めて判断することは難しいと考えています。

状況を継続的に確認しながら、活用するべきもの、制限が必要なものを見極め、柔軟に対応していきたいと考えています。

## ○府立学校の志願倍率について

(産経新聞)

府立豊中高校が1.7倍と高倍率になるなど、一部の学校では人気が集まる一方、通学条件が厳しい学校や地域に1校しかない学校では定員割れが続いている状況があるかと思えます。そうした学校に対する魅力向上の取組について、どのように考えていますか。

(水野教育長)

まず、志願倍率について考える際に、誰の視点で捉えるのかという点が非常に重要だと考えています。

倍率が高い学校については、一般的には「人気校」と受け止められがちですが、受験生の立場からすると、倍率が高いということは、それだけ多くの不合格者が出ることを意味します。例えば、豊中高校の倍率が1.7倍というのは、受験生にとっては相当な負担であり、決して軽いものではないと認識しています。

一方で、倍率が 1.0 倍を下回る学校については、報道等では「定員割れ」として注目されがちですが、その学校を志望していた生徒にとっては、落ち着いて受験できるという側面もあります。

このように、受験生の視点に立てば、倍率は低い方が望ましいという見方も成り立つと考えています。

ただし、設置者である府教育委員会の立場から見ると、倍率が低い状況が続く場合には、「なぜ選ばれていないのか」「学校の魅力が十分に伝わっているのか」といった点を検証していく必要があります。

その意味で、倍率の高低は、学校の状況を把握するための一つの指標として捉えています。

倍率が高い学校については、なぜ選ばれているのか、どのような取組が評価されているのかを分析し、その要素を他校にも展開できないかという視点が重要です。

一方で、倍率が低い学校については、それぞれの学校が持つスクールポリシーや教育内容が、十分に伝わっているかどうか、また、地域性や通学条件といった要因も含めて、丁寧に状況を見ていく必要があると考えています。

例えば、昨年度はいわゆる「寝屋川高校」をめぐる状況について多くのご意見をいただきましたが、今年度の入試では志願倍率が回復し、学級数も元に戻っています。校舎の大規模な改修など、劇的な環境変化があったわけではありませんが、このように志願状況には年度ごとの変動が生じることもあります。

ただし、複数年にわたって志願倍率が低い状況が続いている学校については、人口動態など地域の構造的な課題も踏まえつつ、魅力発信や教育内容の見直しについて、より踏み込んで検証していく必要があると考えています。

令和 8 年度に向けては、広報・プロモーションの予算も拡充しており、学校の魅力発信をこれまで以上に支援していく予定です。

各学校が自らの強みや教育の特色を再確認し、それを分かりやすく伝えていく取組を、府教育委員会としてもしっかり後押ししていきたいと考えています。

## ○ネクストハイスクール構想について①

(朝日新聞)

国において、公立高校関連で 3,000 億円規模の予算が措置されたと聞いています。

先ほどのお話にもあった魅力発信の観点も含め、こうした補助金を活用した大阪府としての考え方を教えてください。

(水野教育長)

国において、いわゆる高校教育の在り方に関するグランドデザインが示され、その中で「ネクストハイスクール構想」が位置付けられています。

これまで公立高校については、高校は義務教育ではないという位置付けもあり、基本的には都道府県教育委員会が主体となって、その在り方を担ってきました。

その中で今回、国が 3,000 億円規模の予算を措置し、各都道府県に対して一定の支援を行うという、大きな方向性が示されたものと受け止めています。

現時点では、1校あたり最大20億円を上限に、1都道府県につき3校までを想定した制度となっており、結果として最大で60億円規模の支援が見込まれています。

大阪府としても、この制度をどのように活用できるかについて、慎重に検討を進めているところです。国からは、対象となる学校や取組内容について、三つの類型が示されています。

一つ目は、エッセンシャルワーカーやアドバンスド・エッセンシャルワーカーの育成に資する取組、二つ目は理系人材の育成、三つ目は多様な人材を育てる新たな教育モデルに関する取組とされています。

大阪府として、これら三つの類型の中で、どの学校をどの類型に位置付けるのが適切なのかについて、現在、内部で議論を重ねている段階です。

府として独自に学校を選定するのではなく、国の示す枠組みに沿って内容を整理した上で、国に提出し、審査を受けることになります。

この構想の特徴として、選定された学校が改革を進めるだけでなく、その成果をモデルとして、府内の他校にも横展開していくことが求められている点があります。

大阪府全体の高校教育の質の向上につながるよう、慎重かつ前向きに検討していきたいと考えています。

## ○ネクストハイスクール構想について②

(産経新聞)

発表の時期について、現時点での目安はありますか。

(水野教育長)

国の公募スケジュールを踏まえると、締切は5月頃と認識しています。

現在は、国の第3回公募を目指して内部で検討を進めている段階です。

具体的な学校名や内容について、記者の皆様にお示しできる時期としては、現時点では5月中旬頃を一つの目安として考えています。

ただし、国の審査状況等によって前後する可能性があることについては、ご理解いただければと思います。

## ○ゆめ基金について①

(記者)

寄附の内訳はどのようなになっていますか。あわせて「ミyakポ！」による寄附額について公表されていない理由をお聞かせください。

(水野教育長)

「ミyakポ！」につきましては、寄附者の方との合意により、失効ポイントに基づく寄附額については公表を控えることとしております。

一方で、寄附の内訳については、ふるさと納税ポータルサイトにおいて、「さとふる」が9件で6万7,000円、「ふるさとチョイス」が9件で11万6,000円、「楽天ふるさと納税」が41件で57万8,000円となっています。

また、PayPay を活用した寄附についても、都道府県で初めてとなる形で取り組み、24 件で 7,565 円の寄附をいただきました。

そのほかにも、企業や個人からの寄附など、さまざまな形での寄附をいただき、総額としては 1 億 7,633 万 6,143 円となっています。

より詳細な内訳については、担当窓口にお問い合わせいただければ、可能な範囲で説明していきたいと考えています。

## 〇ゆめ基金について②

(記者)

今回、寄附額が増えた要因については、新たな寄附方法の追加が効果を上げたと考えていますか。

(水野教育長)

新たな寄附方法を追加したことによる効果は、大きかったと考えています。

加えて、記者の皆様がこの基金について取り上げていただいたことも、非常に大きな要因になっていると感じています。

10 月の記者会見でもゆめ基金について取材いただき、記事として掲載していただいたことで、多くの府民の方に基金の存在を知っていただく機会となりました。

そのタイミングで、寄附の入口を複数用意していたことが、結果として多くの寄附につながったものと受け止めています。

また、比較的大きな金額で寄附をいただいた方もおられますが、もし情報が届いていない状況であればご寄付いただけなかったかもしれません。

今回の取組は、広報と制度設計の両面がうまくかみ合った結果であったと考えています。

## 〇ゆめ基金について③

(記者)

令和 8 年度の目標について、どのように考えていますか。

(水野教育長)

目標額については、今回、実績値が明確に示されましたので、内部では、この実績を上回ることを一つの目安として検討していきたいと考えています。

ただし、単に金額を追いかけることが目的ではないと考えています。

例えば、「この金額に達したら校舎を整備する」といった性質のものについては、本来、通常予算で対応すべきものです。

大阪教育ゆめ基金は、公立・私立を問わず、「大阪の教育を応援したい」「母校を支援したい」という思いを持つ方々とつながり、その輪を広げていくことも大きな目的です。

今後は、寄附額だけでなく、どれだけ多くの方に関心を持ち、応援していただけたのかという視点も含め、目標や指標の在り方について検討していきたいと考えています。

(これは記者会見の概要であり、発言内容をそのまま記録したものではありません。)